



特別養護老人ホーム豊厚園 園長
Vol.27 ^{みうら やすひろ}
三浦 康弘さん

道場に響く息遣い。風を切る竹刀。特別養護老人ホーム豊厚園の園長などを務める三浦さんは、剣道7段の実力者。札幌市で行われた全国健康福祉祭剣道交流大会の65歳から69歳の部で優勝し、北海道代表チームの副将として、11月に神奈川県で開かれる全国大会に出場します。三浦さんを訪ね、竹刀に込める思いを聞きました

恩返し思い竹刀に込める

後志管内の喜茂別町出身。剣道を教えていた父の知人から誘われ、6歳から剣道を始めました。「一度決めたこと、人との約束は、最後まで貫きなさい」。今も父親の教えを守り続けています。人との信頼関係を壊さないため、常に自分を律しています。幼少のころ、友人と遊びに没頭して稽古に間に合わなかったことがありました。玄関先で仁王立ちの父から「いい加減な態度なのであれば、辞めてしまえ」とひどく怒られました。「今でも、あの言葉は耳に残っていて、私を鼓舞します」。

への対処も経験。「困難を乗り越える職員が試合前に脳裏をよぎり、私を後押ししてくれました」。全国大会への切符は、職員と共に勝ち取った成果でもありました。

三浦さんは、相手に合わせて戦術を変えず、真つ向勝負の「面」にこだわります。対戦相手の最も遠い部分が面で、冷静な判断と勝負度胸が必要です。今大会でも、面で勝ち上がりました。「記憶や竹刀の感触は覚えていません。無の境地でした」。

三浦さんには2つの目標があります。剣道の愛好者を増やすことと、最高位の8段への挑戦です。「昔は、大勢のこどもたちが竹刀を握っていました。当時の活気を取り戻し、町を元気にしたいと思っています。精進あるのみです」。

北海道代表の誇りと郷里への恩返しを胸に秘め、「全国舞台で竹刀を躍動させます」。